

一般入試前期A日程2日目

英語

I

■出題のねらい

日常的な話題（就職にともなう引越）についてのオンライン通話アプリを通じた会話の内容を正確に理解しているかを問いました。会話に使われている単語や構文はきわめて基礎的なレベルなので、落ち着いて会話の展開を的確にとらえましょう。**Kazuki** はこれまでどのような場所に住み、どのような場所に転居しようとしているのか、一方 **Sarah** はどのような情報に基づいて **Kazuki** とやりとりをしているのかなど、二人の発言の特徴的な要素を的確にとらえることで、正答率はアップします。

■採点講評

正答率が比較的高かったのは で、**Kazuki** が交通機関の利用を特に拒んでいないという状況を、8割弱の受験生が正しく読解していました。それ以外の設問は正答率が5割前後でした。特に低かったのは、会話中の空所に入る適切な疑問文を選ぶ で、40%強でした。おそらく、空所の直後で「東京」という地名が出現しているため、選択肢に「東京」を含む選択肢④を誤って選択した結果だろうと推測します。また、 の正答率は5割強ですが、**Kazuki** の最後の発言にある“**think it over**”「もう一度考える」という語句の意味を正確に理解できていれば、引越し先が結局確定できていないことを示す選択肢④にたどりつけたはずです。

II

■出題のねらい

案内ポスターの形式で書かれた英文の内容（英国の運河に浮かぶ貸切ボート [バージ] でのレジャー案内）を正確に理解しているかを問いました。このレジャーにはどのような特徴があるのか、魅力は何か、誰が参加可能なのか、どのような種類のボートが賃借可能なのか、客側にとっての注意事項は何かなど、重要な内容はセクションに分割され、項目ごとにまとまっているので、一つ一つ集中して読み解きましょう。語彙や構文は、一見難しく見えるものも混ざっていますが、基本的にはすべてレジャー用語なので比較的容易に意味が類推できます。

■採点講評

難易度の高い設問が多かったようです。正答率が高かったのは のみで、これは7割を超えていました。残りの は3割強、 は1割台でした。 は選択肢の中で最もよく知られた単語と思われる“**peaceful**”が正答ですが、逆に簡単すぎる単語なので敬遠されたのかもしれませんが。最も正答率が低い では、“**dangers**”という語を含む選択肢①を選んだ受験生が5割を超えています。本文の該当部分では、確かに「船酔い」

「悪天候」など、このレジャーのマイナス要因らしきものも言及されています。しかし、前後の情報を読み解くと、「運河は水面が穏やかなので、船酔いしない」「悪天候の場合は、利用料を返金する」という利用者向けの補足的内容であることが理解できるはずです。したがって、正答は④です。

III

■出題のねらい

トンネルや橋などの道路インフラの修繕状況に関する話題です。修理が必要な道路インフラが8万カ所あり、その大半を管理する地方自治体の財政難ゆえに修繕があまり進んでいない点をまず抑えることが重要です。数字が多く出てきますが、どの数字が何を指しているのかを正確に読み取れるかどうかを問う問題が数カ所あるので、前後の文脈と矛盾がないように落ち着いて読みましょう。グラフから読み取る問題もあるので、本文だけではなく、関連資料にもしっかりと目を通しましょう。

■採点講評

選択肢が日本語や数字の設問は正答率が比較的高く、一方、選択肢が英語の設問ではやや低い正答率でした。最も低いのは [11] の3割弱で、“face”という動詞について、空所の位置にふさわしい形を文法的に見きわめることができない受験生が多かったようです。この英文の述部が動詞“mean”であることに注意しましょう。また、[14] については、もしも“correspond”という単語の意味がわからなかったとしても、消去法によって他の3つの選択肢を排除できるはずです。新聞記事全体の内容と照合して正しい選択肢を選ぶ [15] の正答率は、7割弱でした。

IV

■出題のねらい

銭湯が地域社会の防災インフラストラクチュアとして重要な役割を担っていることを紹介した記事です。過去の災害の経験を生かして、個々の銭湯が地域行政と連携しながら、さまざまな面で努力をかさねている事例をしっかりと把握することがポイントです。災害時の情報提供の多言語化は近年我が国でも重要視されており、関連語彙・表現を確実に押さえる必要が高まっています。限られた時間で文脈を読み取り、内容を理解しましょう。

■採点講評

半数以上の受験生が50%以上の正答率なので、長文問題としてはおおむね良好な結果でした。ただし、語彙力・文法力の差が明解に影響を与える設問もありました。たとえば [16] では、

動詞“take”とつながりやすい名詞が選択肢に並ぶ中で、この文脈にふさわしい「行われる」という意味になる“place”を選択できるかどうかが問われています。この設問、および“accessible”に続く前置詞を選ぶ [18] では、正答率は5割を切りました。また、[21] の正答は④ですが、おそらく動詞“gain”の意味が把握できていない受験生もおり、その動詞を含む選択肢②も④とほぼ同じ35%の選択率でした。さらに、“be equipped with”の意味を別の動詞で代替する [23] も、正答率が低く25%ほどでした。なお、[25] [26] で最も選択された誤った選択肢は⑤で、4人に1人がマークしていました。非常時の対応マニュアルは、東京都浴場組合が作成し、都の内外の浴場組合に配付していることが、本文最終段落に明確に記載されています。一方、正答率が比較的高く7割を超えた設問は、和訳の [19]、主語“it”の内容を選択する [20]、被災者への支援内容を正確に区別する [22] でした。

V

■出題のねらい

ジェンダー・ステレオタイプが指摘されて久しいですが、女性だけではなく男性もまた、それを負担に感じているという調査結果を紹介した記事です。コロケーションの知識や、逆にそれにつられずに正しく構文を読み解く英語力が問われます。内容読解には簡単な計算が求められる選択肢が含まれますが、本文には数字が多く用いられていますので、選択肢と本文をしっかりと読み解き、どこを参照すれば良いのか判断しましょう。

■採点講評

多くの受験生が、英作文の解答、あるいはそれ以前に英文の内容の把握自体に苦労したようです。4つの設問中2問以上で正答した受験生は、わずか1割強でした。[27] は“engage in”という熟語が鍵です。[28] は、直前で“30 percent”が主部で“said”という述部につながっていることに着目し、“26 percent who (said)”と組み立てられれば正答に近づきます。同様に [29] は、“they are considered (superior)”という受動態を発見することが重要です。